

ソニー教育財団 2015年度 教育助成プログラム

小学校・中学校、幼稚園・保育所・認定こども園 対象

教育実践論文 募集開始のお知らせ

ソニー教育財団(会長:盛田昌夫)は、全国の小学校・中学校、幼稚園・保育所・認定こども園から教育実践と計画をまとめた論文を募集し、より良い教育の実践に情熱をもって取り組む学校・園に教育助成を行っています。

今年度も8月1日より小・中学校を対象とした「ソニー子ども科学教育プログラム」の論文募集を開始しました。また、14日より幼稚園・保育所・認定こども園を対象とした「ソニー幼児教育支援プログラム」の募集を開始いたします。

ソニー創業者の井深大が1959年に始めた「ソニー小学校理科教育振興資金」を受け継ぐ2つの教育助成プログラムには、これまで全国から12,000件を超える応募をいただき、入選校・園には50年以上も継続して、教育助成金と教育教材(ソニー製品)を贈呈してまいりました。昨年度も、全国の小・中学校より184件、幼稚園・保育所・認定こども園より94件、合計278件のご応募をいただきました。



ソニー創業者 井深大

次世代を担う子どもたちを育むため、熱心に取り組む学校・園のみなさまからの多数のご応募をお待ちしております。

募集概要

■ソニー子ども科学教育プログラム

- 主題: 「科学が好きな子どもを育てる」～「なぜ」を大切に、感性・創造性・主体性の育成～
対象: 小学校・中学校
審査委員長: 御手洗康 (公財)修養団理事長、元文部科学事務次官
募集期間: 2015年8月1日(土)～9月2日(水)
助成内容: ソニー製品と、最優秀校300万円、優秀校50万円、奨励校10万円の教育助成金
入選発表: 2015年12月中旬に当財団のホームページで発表
応募方法: <http://www.sony-ef.or.jp/sef/program/guide/science.html>

■ソニー幼児教育支援プログラム

- 主題: 科学する心を育てる ～豊かな感性と創造性の芽生えを育む～
対象: 幼稚園・保育所・認定こども園(主に3歳から5歳児)
審査委員長: 小泉英明 (株)日立製作所 役員待遇フェロー
募集期間: 2015年8月14日(金)～9月14日(月)
助成内容: ソニー製品と、最優秀園100万円、優秀園20万円、奨励園5万円の教育助成金
入選発表: 2015年12月中旬に当財団のホームページで発表
応募方法: <http://www.sony-ef.or.jp/sef/program/guide/preschool.html>

<報道関係の問い合わせ先>

公益財団法人 ソニー教育財団 東京都品川区北品川4-2-1

TEL:03-3442-1005 FAX:03-3442-1035 (担当 山下)

公式HP: <http://www.sony-ef.or.jp/> 公式FB: <https://www.facebook.com/SonyEducationFoundation>

<参考資料>

■昨年度(2014 年度)の教育助成プログラムの実績

ソニー子ども科学教育プログラム 応募総数: 184校
<最優秀校 2校 教育助成金 300万円>

■東広島市立河内小学校／広島県

テーマ:主体的に追究し 友と学び合い 意欲的に活動する子どもの育成



■山梨大学教育人間科学部附属中学校／山梨県

テーマ:科学への感性を磨き、素朴概念を自ら科学的概念へ変容できる生徒を目指して



ソニー幼児教育支援プログラム 応募総数: 94園
<最優秀園 2園 教育助成金 100万円>

■函館美原保育園／北海道

テーマ:科学する心の芽を育てる保育 ～保育士の援助と視点について「氷作り」と「種から種へ」より～



■めるへの森幼稚園／宮城県

テーマ:もっと知りたい! 樹液の世界!! ～自然の中での幼児の好奇心・探究心の育ちを探る～



■昨年度(2014 年度)の入選論文

ホームページでご覧いただけます。

<http://www.sony-ef.or.jp/sef/program/result/2014.html>

■昨年度(2014 年度)の贈呈式の様子

2015 年 2 月 1 日(日)にソニー本社にて贈呈式を開催しました。

最優秀および優秀校・園の校長先生・園長先生、論文の研究代表の先生および保護者の代表をお迎えし、会長の中鉢良治(当時)より表彰状と目録が手渡されました。当日は、ご来賓として出席いただいた文部科学省文部科学審議官の前川喜平様より、ご祝辞をいただきました。



■ソニー創業者 井深大と教育助成について

ソニーの創業者である井深大は、会社創立に際して「技術を通じて日本再建と文化の向上に貢献する」「国民科学知識の実際的啓発活動」と設立趣意書に記しているとおり、教育について多大な関心を抱いていました。戦後日本の復興のためには理科教育こそ重要だと考えていた井深大は、日本初のテープレコーダーやトランジスタラジオを発売して会社経営がようやく軌道に乗り始めたのを機に、1959年に「ソニー小学校理科教育振興資金」の贈呈を始めました。理科教育に創意工夫を行い、先進的な取り組みを行う学校を表彰し助成する活動の始まりです。当初、助成対象は小学校でしたが、1961年からは中学校へも対象を拡げました。そして、この活動を継続的に発展させるために、1972年に「財団法人 ソニー教育振興財団」を設立しました。その後、井深大の理念を引き継いだ教育助成は、子どもたちの感性・創造性・主体性の育成を目指した「ソニー子ども科学教育プログラム」へと発展し現在に至っています。

一方で、井深大の教育への関心は幼児教育にも広がり、1969年に「財団法人 幼児開発協会」を設立しました。胎児から幼児を対象にした幼児教育の大切さを説き、その研究と実践を推進しました。そして、2001年にソニー教育振興財団と幼児開発協会を統合して、「財団法人 ソニー教育財団」を設立しました。その後、幼児期の豊かな感性と創造性の育成を願い、2002年より「幼児教育支援プログラム」を開始し、全国の幼稚園・保育所・認定こども園の優れた教育の取り組みに対して支援をしてきました。

教育助成はこれまでに、延べ12,000件を超える応募があり、子どもたちの教育に創造的、先駆的な取り組みを行っている全国の学校・園と先生方を、50年以上に渡り支援しています。

■ソニー教育財団のあゆみ

- 1959 「ソニー小学校理科教育振興資金」開始
- 1963 「ソニー理科教育振興資金受賞校連盟」結成
- 1969 「財団法人 幼児開発協会」設立
- 1972 「財団法人 ソニー教育振興財団」設立(井深大理事長)
- 2001 「ソニー小学校理科教育振興資金」を改称し「ソニー子ども科学教育プログラム」開始
「ソニー教育振興財団」と「幼児開発協会」を統合し、「財団法人 ソニー教育財団」となる
- 2002 「ソニー理科教育振興資金受賞校連盟」を改組し、「ソニー科学教育研究会(SSTA)」発足
「ソニー幼児教育支援プログラム」開始
- 2011 「公益財団法人 ソニー教育財団」に移行

以上